

自立課題

平成21年6月1日

自立課題の目的

- 保護者が自立課題を作る目的
- 支援者が自立課題を作る目的
 - 自立
 - 評価
 - 余暇
 - 自己統制
 - 学習的要素

自立課題を作る前に...

- 課題をいつするか→スケジュール
- 課題をどこでするか→物理的構造化
- 課題をどれくらいするか・どういう順番でするか・終わったらどうなるか→ワークシステム



自立課題の課題作りをする前にこれをセッティングしなければならない

自立課題で目指すもの①

- 子どものころから修正させられることが多い
ex) わからない・できない→「ちがうよ」「反対だよ」
- 失敗することが苦手
→「失敗するより指示を待とう」
- 自尊心が育ちにくい→「俺っていけてる？」



受動的・自信のない成人期



自立課題で自分がわかる・できる体験をつむこと



自立への足がかり

自立課題で目指すもの②

- 理解面の評価
 - ex) ことば・数字・概念・好みなど
- ワークシステムの評価
 - ワークシステムを自立して使えているか
- スケジュールの評価
 - スケジュールを理解しているか
- 物理的構造化の評価
 - どんな環境だと集中できるか(視覚刺激・聴覚刺激など)
- 自立してできる課題のセッティング・課題の量の評価

自立課題で目指すもの③

- 問題行動が多い(水遊びなど)
- 感覚刺激に没頭する
- 同じ遊びばかり繰り返す(ゲームなど)
- 母親がいないと遊べない



ひとりで適切に過ごす時間としての役割り

→余暇

自立課題で目指すもの④

- ・スケジュールとして自立課題活動を見通す
 - ワークシステムで自立課題の量・終わったら何があるのか見通す
 - 課題の中身を見て、どうなったら終わるのか見通す
- 見通せる活動があることで、自己統制(我慢する・切り替える)などの心を育てる

自立課題で目指すもの⑤

- 学習的要素

- 新しく習得したことの確認（本当に理解しているか）
- 繰り返し同じ課題をやることで、スキルをより 確実にしていく

↓それができたら...

応用編

- 量を増やす
- 形態をかえる

こどもの評価（認知）

- まずはこどもの評価をしましょう
- ① インフォーマルな評価からのワークシートへの落とし込み（認知）→ 認知と特性の評価のワークシートへ

PEP-Rの結果からの落とし込みの例

- ・物の使い方がわかるか？

検査項目110 「物の使い方を身振りで示す」が合格なら○、芽生えなら△、不合格なら×とする。ただし、△×でも日常場面で間違った使い方をしていなければ○や△にしてもよい。例えば何でも口に入れる、何でもカンカンと音を鳴らす、並べるなど。

こどもの評価（行動の特性）

- こどもの評価をしましょう
- ②インフォーマルな評価からのワークシートへの落とし込み（特性）→認知と特性の評価のワークシートへ

PEP-Rの結果からの落とし込みの例

- PEP-Rの検査項目58「笛の音に反応する」
適切→適 ・中度→中 ・重度→重

ただし、検査場面では観察されなかったが同年齢の子どもの刺激には弱いなど他の場面で該当すれば
適切→中度・重度にしてもよい

支援のための構造化

支援のためのワークシート参照

- いつするか(スケジュール)、
どこですか(物理的構造化)、
どうやってするか(ワークシステム)
- 1回で示す量
- 動機付け
など支援にとって必要な構造化をまとめる

自立課題を作る

③子どもが確実に自立してできるもので、興味・得意分野を生かせる課題作りを設計しましょう。

③ー1 どんな領域にするか？

- ・プットイン(素材・大きさ)
 - ・1対1(素材・大きさ)
 - ・パズルや型はめ
 - ・マッチング(色・形・文字・絵・写真・表情)
 - ・数字(数量・数列)
 - ・書字(線・形・ひらがな・カタカナ・漢字)
 - ・お金
 - ・時計
 - ・身辺自立スキル
 - ・作業スキル
 - ・余暇スキル
- などなど

大切なのは、こどもの認知レベルに合わせることです。

ポイントは援助されず、完全に自立して完成させることのできる課題です。

自立課題を作る

③－②注意の集中時間・見通せる量に合わせて、その量を決めましょう。

注意 最初は少なめで用意すること
1課題1分でも良いのです！

③－③ 課題内の組織化・構造化を行いましょ。

つまり、わかりやすくする工夫です。この際に、本人の認知の得意なところを使い、特性に配慮した工夫をしましょう。

例えば...

視覚的指示(得意なことを生かす)

- ・色で指示を与える
- ・数字の順列で指示を与える
- ・写真で出来上がりの絵を示す など

視覚的整理(視覚刺激に配慮する)

- ・課題を仕切りの付いた所に分類して入れておく
- ・始まりと終わりを明確にする など

視覚的明瞭化(認知に配慮する)

- ・ぱっと一目見て、何を指示されているか分かるようにする
- ・出来上がったものを入れる場所を作る など

自立課題を作る

- 自立課題ワークシートに、課題作成の計画を立てましょう。

①領域

②注意の集中・見通せる量

③視覚的指示・視覚的整理・視覚的明瞭化

④設計図

⑤必要な材料

本日はここまで

来月予告

- まず、課題の作成からはいります
設計図に従って必要な材料を使って作っていきましょう
持ち物：課題作りに必要な材料
文房具(カッター・はさみなど)
ワークシート
- 課題ができたなら大人がシュミレーションしてみます
その後、修正しましょう
シュミレーションをする際に、こどもの認知と行動の特性のワークシートに
添った、その人になってシュミレーションすることが大切です。
- ・次回の自立課題のワークシート記入と課題作りの材料の用意が宿題です